

発行所 〒102-0083  
 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル内  
 公益社団法人日本海洋少年団連盟  
 電話 03(5213)4778  
 (年6回奇数月の1日)  
 購読料 1部10円(送料実費)  
 会員会費には購読料が含まれる  
 振替東京 5-13846番



ちかい

1. 海のような広い心で団結し すべての人を友とします。
2. からだをきたえ、心を養い 立派な海の子になります。



最終審査会



授賞式



第51回「我ら海の子展」授賞式

絵画コンクール  
**第51回我ら海の子展**  
 4年ぶりに授賞式を開催

令和5年度の絵画コンクール第51回「我ら海の子展」を一般財団法人サークルクラブ協会との共催で実施しました。

最終審査会

最終審査会は、7月14日、ホテルニューオータニにおいて行われ、今年の応募作品3,921点のうち1次、2次審査を経て選ばれた作品の中から55点の優秀な作品が選ばれました。

最優秀賞の国土交通大臣賞は、最終審査会の前日に国土交通大臣室において斉藤鉄夫大臣自ら選定され、中学生の部には高橋莉久斗さん(中1)、小学生高学年の部には高橋希羽さん(小4)、小学生低学年以下の部には織田将隆さん(小3)の作品が選ばれました。

授賞式

8月18日、4年ぶりとなる第51回我ら海の子展授賞式が同ホテルで行われ、石井浩郎国土交通副大臣ほか多数のご来賓をお迎えし盛大に執り行われました。



この後の展示会は順次お知らせいたします。

子展授賞式が同ホテルで行われ、石井浩郎国土交通副大臣ほか多数のご来賓をお迎えし盛大に執り行われました。

柳野日本海洋少年団連盟副会長の主催者挨拶のあと、石井国土交通副大臣から祝辞と大臣賞を受賞した3人に表彰状と副賞のカップが授与されました(写真)。引き続きほかの賞の表彰も行われ、一人一人に表彰状が授与されました。

最後に受賞者全員による記念撮影が行われ、受賞作品を手にした受賞者の笑顔で授賞式が終了しました。

展示会のおしらせ

- ①銀座ギャラリー(東京都) 8月4日〜9月6日(銀座駅と日比谷駅を結ぶ地下通路沿い)
- ②国土交通省1階ロビー(東京都) 10月2日〜13日、③アクアマリンふくしま(福島県) 11月11日〜12月10日、④琴平海洋会館(香川県) 12月22日〜令和6年1月21日

7月15日・16日の2日間に行われ、今年で16回目となる「美ら海体験教室」は、近藤記念海事財団共催、第一管区海上保安本部、那覇海上保安部及び宜野湾市役所、宜野湾市教育委員会の後援、協力を得て開催されました。

参加者は親子、スタッフ併せて総勢約200人となり、うち子どもは約100人でした。

1日目は、浦添・宜野湾漁業組合の会議室にて、「自然・海洋環境教室」の座学が行われました。まず、那覇海上保安部の海上保安官の皆さんを講師に、「海上保安庁のお仕事紹介」、「海の環境について考えよう」、「マリレジャー」事故の現状と事故防止について」

意点などを教わりました。続いて、座学の会場近くの沖電開発(株)水産養殖研究センターに移

7月25日より27日の日程で商船三井客船の「にっぽん丸」に乗船し、小学生を対象に手旗教室を実施しました。にっぽん丸は23,000トンの大きな客船で、ファミリークルーズとして約400名の乗船客を乗せて横浜港を出港し、静岡沖の駿河湾を周遊し夜には西伊豆町から打ち上げられた2,000発の花火を船上から堪能しま

した。クルーズ中のイベントとして、専門の講師が招かれ、船内ではハイモニカコンサート、ハーモニカ教室、ナプキン折り教室、手旗教室等が行われました。手旗教室では、小学生80名を3年生以下、4年生以上のグループに分け、4回の教室を実施しました。手旗信号を知らない子ども達に、短い時間でしたが、

手旗信号の読み方、書き方を伝えました。自分の名前を書けるようになったお子さんもいました。子ども達に直接手旗の指導をするのは久しぶりでしたが、楽しいひと時でした。こういうイベントを機会に海洋少年団に入会の子が増れば良いなと思っています。



の講義が行われ、海保の仕事や海洋ゴミと生物に与える影響、また翌日のマリレジャー体験の安全に関する注

動し、同センターの職員が講師となって、「海洋生物観察、珊瑚観察・移植等体験」が行われ、海洋生物を素手で触る

ナディングーヤードでマリンスポーツ体験教室が行われました。子どもたちはクルーザー、ディングー、カヌー、SUP、サバニなどを体験しました。その中でもバナナボートのアトラクションが一番人気です。

終了後、子どもたちには、楽しかった体験や前日に学んだことなどを感想文に書いてもらい、全員に修了証が手渡されました。最後にみんなで片付けを行い、2日間にわたる教室は終了しました。

渡嘉敷島から参加した子どもたちは、強風のため予定より早いフェリーでの帰路となり残念でしたが、宜野湾の子どもたちとの交流はいい経験となりました。(感想文は4面)

第16回「美ら海体験教室」開催



今月の主な記事

- 2面〜3面 2023年度地区大会
- 3面〜4面 各団活動報告
- 4面 令和5年度連盟表彰、美ら海体験教室感想文、みどりの広場、間違い探し、連盟だより

# 2023年度地区大会

## 北海道地区大会 成長が見られた大会



第59回北海道地区大会を8月5日・6日、4年ぶりに釧路市にて札幌団と釧路団の参加で開催しました。競技は、ロープワークと手旗を行いました。ロープワークは10課題を、手旗は、無意味・意味各50文字の満点を目指しました。そのほか、北海道地区独自の手旗検定を行いました。3級は、小

学3年生以下の者で原画30文字で満点、2級は正解が85点以上、1級は2級取得者が次年度以降、受信・送信競技で満点を取ると合格です。

今年度入団の団員が多い中、時間内に提示した課題を終わらせることが出来ずに悔し涙を流す団員の姿も見られました。今後の成長に期待です。

カヌー競技、水泳競技、カッター競技は、会場等の事情によりできませんでしたが、検定後は、小雨が時折降る中、B B Qとスイカ

割り・花火を行い交流を深めました。



## 中国地区大会 造船所の見学や記念品づくりも

第14回中国地区連盟大会は、8月4日から三日間、広島県福山市の「ツネインシマナミビレッジ」で開催され、多くの来賓のご臨席を頂き、中国地区の7団(尾道、福山、三原、呉、岩国、宇部、下関)92名の団員・指導者・保護者・支援者が集まり、福山・尾道団の共催主管で開催されました。

初日は、常石造船株式会社のお計らいにより造船所の見学に行きました。バスの中から船が建造される様子を

見学しました。残念なことに進水式が大会終了後の7日に行われると言うことで、進水式を迎える船の前で記念写真を撮りました。

団体競技は20課題を5名(一人4課題)で、10分以内に結び正確さを競い合う競技となりました。今回の大会は、各競技とも速さを競うのではなく、日頃の訓練の成果をいかに正確に発揮するかを競う大会にしました。



さて、大会は手旗受信競技A種目(初等級以上)50文字の課題、B種目(教育級・初等級)原画30文字の課題、手旗送信は4団が参加し制限時間12分以内での正確さを競いました。ロープワークの個人競技は、事前に示されていた課題(A種目20課題、B種目10課題)の中から当日に発表さ

された10課題(A種目)制限時間7分、(B種目)7課題を制限時間10分以内で結ぶものです。団体競技は20課題を5名(一人4課題)で、10分以内に結び正確さを競い合う競技となりました。

この大会を催すにあたりご支援・ご協力いただいた福山市・常石造船株式会社・ツネインシマナミビレッジ、海洋少年団OBの皆さんに心より感謝申し上げます。本日に多くの感動をありがとうございました。

## 東京地区大会 久しぶりの楽しい交流会も

7月28日から30日まで、東京都江東区夢の島にあるBumb東京スポーツ文化館にて大会が開催されました。

今大会は各団を混ぜて班を編成し、寝食を共にして交流を深めました。大会期間中は猛暑に襲われ、競技会場



のスタジオも大変蒸し暑い状況でした。そのような中、団員たちの食欲は衰えず、最後まで元気いっぱい大会を楽しみ、多くの友人ができたようです。

一日目の開会式では、東京地区連盟藤田会長より、5年ぶりの宿泊を伴う大会が開催できたことを感謝する旨が

伝えられ、また、日本連盟菊井大蔵理事長のご臨席を頂き参加団員に励ましのお言葉を頂きました。

二日目の午前中は、手旗、ロープワークの個人・団体競技を行い、全国大会で行われているA・B競技以外に、東京地区連盟では独自に初等級対象のT競技を設定しました。

これは手旗、ロープワークと共にA競技の課題の中から抜粋して出題したものです。団員は、日頃の訓練の成果を発揮すべく真剣な面持ちで競技に臨んでいました。

午後には体育室で交流会やプールで泳力検定を行いました。

閉会式では各競技の表彰が行われ、代表の団員は胸を張って賞状を受け取っていました。そして次回は、東京地区連盟初訓練での再会を約束し帰路につきました。



## 近畿地区大会 楽しい行事が盛りだくさん

8月5日・6日、京都府青少年海洋センターで第23回近畿地区大会が開催し、神戸団、大阪みなと団、姫路団、舞鶴団37名が参加しました。



大会中は、まず、手旗、ロープワークの技能検定を行いました。満点をとった団員は表彰されました。

海では、小学5年生以上と4年生以下の団員に分かれ、高学年は施設専門の指導員による本格的なカッター訓練を受けました。低学年は救命胴衣を着け水泳や海水浴を楽しみました。



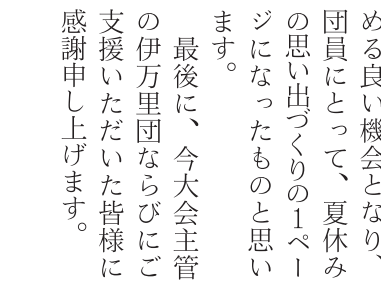
# 九州北部地区大会

## 「日頃の成果を發揮・夏の思い出に」

去る8月5日・6日、き、永年功労者(30地区連主催、伊万里団年)と褒状(団員)対象者全員を發表、地区大会に参加した2名に各章を授与し、栄誉を讃えました。その後行われた、手旗受信(A・B)競技、ロープワーク(A・B)競技には、団員のほぼ全員が参加、真剣なまなざしで日ごろの成果を發揮できました。



地区大会は隔年で開催され、またコロナ禍で延期されたため5年ぶりとなった今大会には、団員・指導者約80名が参加。開会式では、地区連会長挨拶、主管団団長歓迎の言葉に続いて、夕食後「友情のつどい」で大いに盛り上がり、めぐる良い機会となり、団員にとって、夏休みの思い出づくりの1ページになったものと思います。



最後に、今大会主管の伊万里団ならびにご支援いただいた皆様にご感謝申し上げます。

# 夏の活動報告



## 清水団

### ☆青い羽根募金 広めたい☆



8月6日、地元で開催された「清水マリナーフェスタ2023」の会場で、青い羽根募金活動を実施しました。暑い中、多くの方が来場し、子ども達の募金活動の呼びかけに足を止め募金して頂きました。

## 船橋団

隣に位置し、防波堤の一角に周辺の貝殻が集積してできた島です。夕食のスパゲッティ・ボンゴレを期待していたのですが、全くアサリがいりません。写真は貝殻島南側の干潟の風景ですが、これだけの干潟が広がるにもかかわらずアサリが1個も見当たりません。皆ですごく帰って来ました。



ここ数年、このような傾向が続いています。全国各地でもアサリの漁獲量が激減しています。気候変動の影響か、アサリ漁場の環境変化が原因か。アサリ資源回復のための手伝いを海洋少年団でも何かできないものではないでしょうか？

## 東京地区連盟

テージ上でオープニングセレモニーがはじまり、早速、海洋少年団の出番がまわってきました。団員は緊張した面持ちでしたが、きちんと整列や敬礼、きびきびとした手旗信号の披露には、大きな拍手が送られました。



お土産に用意した手作りのペンタンの缶バッジ等もあつという間になくなるほどのたくさんの来場客があり、次々と訪れる親子連れの対応に指導者や団員も大忙しでしたが、海洋少年団をアピールすることができました。

## 目白台団

### ☆カッター体験 会☆



6月18日に、一般の方を対象にしたカッター・カヌー体験会がありました。

主に関小・中学生の子ども達がたくさん参加して、カッターやカヌーを楽しんで頂きました。

カッターやカヌーのほかにも、普段訓練している内容を紹介します。機会もあり、私は手旗の紹介を担当しました。

## 神戸団

### ☆客船フェスタで手旗実演☆



7月23日・24日、神戸ポートターミナルにおいて、客船や港に親しみや魅力を感じてもらおうイベントとして「客船フェスタ」が開催されました。

## 敦賀団

### ☆カヌー体験効果で新入団員増☆



7月23日に令和5年度班長戴帽式と入団式を行いました。



今年、昨年12月から活動している1名を含む13人がハレの日を迎えました。ひとり一人がろうそくを手を立派な団員になることを堂々と誓いました。

## 普剌丸

### ☆帆船日本丸シッブスクール体験☆



8月18日、24年ぶりに敦賀港に「帆船日本丸」が入港しました。

# 浜田団

## ☆薬物乱用防止 キャンペーン☆



6月25日、浜田市内において、令和5年度しまね「ダメ。ゼッタイ。」普及運動における「6・26ヤング街頭キャンペーン」に、団員2名、指導者2名、保護者1名が参加しました。  
同キャンペーンは、薬物の乱用撲滅を目的として行われるもので、開講式においては、団員の濱田君、鈴木君の二人が厚生労働大臣のメッセージを元気いっぱい読んでくれました。  
開講式の後、大型店に移動し、啓発資料を配布しました。  
梅雨入りした後でもあり、蒸し暑い中でしたが、店に入りまする人へ声を掛けながら一生懸命配布しました。  
団員をはじめ参加者の皆さん大変お疲れさまでした。

# 高知団

## ☆マイクロプラ スチック調査☆



高知団では年2回、高知市桂浜で「海浜清掃」と「マイクロプラスチック調査」を実施してきましたが、今回は桂浜の西側に位置する「春野海岸」で掃除と調査を実施しました。  
春野海岸には毎年、ウミガメが産卵のために上陸することから、地域住民が海岸を清掃し、ウミガメの産卵後設定された保全区域に卵を移し、生まれ出てからある程度の大きさになるまでウミガメの赤ちゃんを保護しています。  
また、今回は当団と高知海上保安部(4名)、高知県スキューバダイビング安全協議会(5名)、春野海岸の周辺で海上工事をしている久保建設(2名)の方々が参加することになり、合同で掃除を実施しました。  
調査は、エリアを決めて、採取方法を勉強してきた団員と指導員が担当し、保護者はエリア内の不燃物を集めました。高知県スキューバダイビング安全協議会の方々は、私たちが設定したエリアの前面海域の波打ち際の海底を、空気ボンベを背負い清掃しました。その他の参加者は海岸全体から不燃物を集めました。  
清掃活動の結果、不燃物(ペットボトル、ビニール袋、アルミ缶など)47袋(30L)を集めました。また、収集したマイクロプラスチックとレジレットは調査票を作成して、春野海岸管理者の高知市農林水産課に報告書を提出しました。  
当団では、今後もこの活動を継続し、海洋保全活動の重要性をアピールして行きたいと考えています。

# みどりの広場

## 「合宿さんかのおもいで」

今回はじめてさんかしました。おやといっしょに行くんだと思っていたので、しゅうごうまえはふあんでした。でも、行ってよかったです。  
みんなでバスにのって行きました。ついて、おとまりするところのたんけんをしたり、ゲームをしました。おふろは、いえのとちがい大きいので、みんなでおよいだり、もぐってかくれんぼをしてあそびました。  
おぼまだんいがいのともだちもできました。ねる前に、5人でおにごっこをしたり、まぐらなげをしてあそんだのが、すぐたのしかったです。  
今回はじめてさんかしました。おやといっしょに行くんだと思っていたので、しゅうごうまえはふあんでした。でも、行ってよかったです。  
みんなでバスにのって行きました。ついて、おとまりするところのたんけんをしたり、ゲームをしました。おふろは、いえのとちがい大きいので、みんなでおよいだり、もぐってかくれんぼをしてあそびました。  
おぼまだんいがいのともだちもできました。ねる前に、5人でおにごっこをしたり、まぐらなげをしてあそんだのが、すぐたのしかったです。

小浜団 花立 理仁

## うみた ひろみ 海太と洋美 7つの間違い探し VOL.166 作・ちばへーた



上の絵と下の絵、違うところが7か所あります。探せたかな？  
答えは下を見てね！

## 美ら海体験教室 感想文

今回の美ら海体験教室を通して、海のキケンさ、マリンスポーツ等をするにあたっての重要なことを知ることができた。サンゴの植えつけなど体験して、沖縄の海がこんなにきれいで守られているのは、このような活動があるからだとなり、マリンスポーツ体験は、感謝しながら楽しむことができた。これから私たちは「ボイ捨てしない」「この美ら海を守る」ことを大切にしていきたいと思った。(比嘉奈々美)

今回、初めて体験教室に参加させて頂き、1日目の環境問題についての説明を受けて、子ども達が色々考えるいい機会になりました。これから自然環境を守っていくために、大人も子供も現状を知って一緒に考えることはとても大切だと思いました。

2日目は、なかなか地元民が体験することができないマリレジャーを楽しむことができました。子供たちはとても喜んで海で遊ぶことの楽しさを体感していました。海での遊びを通して自然を大切に育む気持ちを育ててほしいです。(大城美穂・保護者)

(渡嘉敷島の参加者から)  
バナナボートが強い波が来た時に体がふわっと浮いたのが楽しかった。サンゴの植え付けをやってみたかったのがよかった。(坂田ほのか)

サンゴの植え付けをはじめやりました。もっとサンゴを守ろうと思いました。バナナボートがめっちゃ楽しかった。(渋谷みかん)

普段、島ではできない経験ができました。サンゴの植え付け、海保の話、バナナボート、少しの間でしたが、とても勉強になりましたこと、感謝します。(坂田明子・保護者)

## 令和5年度 連盟表彰

本年度の連盟表彰は次のとおりです。  
◇永年功労表彰  
40年 八戸団 浮木 隆  
大阪みなと団 倉内 勇  
30年 八戸団 木村 孝志  
本間 丈夫  
長崎団 馬場 義和  
◇褒状  
指導者・準指導者  
姫路団 大橋 康仁  
門司団 將口 陽平  
高等級3級団員  
八戸団 天摩 幸輝  
敦賀団 滝波 参叶  
檀野 暉  
尾道団 桃谷 尚  
岩国団 塩屋恵太郎  
門司団 山本 芽依

中等級3級終了団員  
八戸団 本間 みち  
敦賀団 松宮 優紀  
福山団 松中 悠太  
宮崎倫太郎  
佐世保団  
小柳津瑛太  
岩永 弘誠  
佐伯団 高野 純

福岡団 宮崎 桜子  
竹内 蓮

## 連盟だより

1 上級指導者養成研修について  
12月2日・3日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、日本連盟主催の上級指導者養成研修を行います。

2 海洋少年団ハンドブック配布のお知らせ  
「入団と手旗信号編」が発行されました。各団には順次配布いたします。

3 我ら海の子展について  
本年度は海洋少年団員の受賞者は残念ながらありませんでしたが、来年度も引き続き応募をお願いします。

4 国際交流について  
7月から8月にかけて、5年ぶりに韓国と香港の国際交流へ日本の海洋少年団が参加しました。帰国した団員からは、とても有意義な交流ができたとの報告がありました。

来年度は海外団を招待して国内で国際交流を行います。興味のある団員はぜひ参加をお願いします。